

黒姫山南西ルート・高デッキ山山スキー報告

【山城】長野戸隠：黒姫山・高デッキ山

【日程と天気】2018年2月17日（土）風雪模様、18日（日）曇りのち晴れ、風やや強し

【メンバー】CL 菊池・滝本・薄井・吉川・石橋・鈴木（元会員）・その他会員外5名

【行程】

17日：千葉一道の駅「信濃」集合一戸隠大橋（1140m）ー登山道入口ー南西登山道ルートー標高1530mー滑走（標高差200～300m3本）ー登山道入口ー戸隠大橋ー野尻湖畔・ランプ泊

18日：ランプー戸隠キャンプ場駐車スペース（1171m）ー道路の反対側イースタンキャンプ場ー高デッキ山・瑠璃山に向かう登山道に沿ってシール登行ー1368m付近で渡渉ー高デッキ北西斜面を登高一高デッキ山山頂（1716m）ー北西斜面滑走ー渡渉ー瑠璃山への登山道に沿ってカラマツ林を登高一1590m Pー往路を滑走ーイースタンキャンプ場ー駐車スペースー「神告の湯」温泉・蕎麦ー帰葉



- ・ 2/17~2/18 わが会の常宿、野尻湖畔ランプ泊：妙高・北信地区のパウダーツアーに会員外6名区含め11名が集結した。当初1日目は戸隠大橋から入山、黒姫山稜線から

南西林間ルート、2日目は妙高前山滝沢尾根を予定していたが、冬型の厳しい気象条件に計画変更を余儀なくされた。朝8時に道の駅「しなの」に11名が集合。そのころから降り始めた雪は徐々に激しくなり、戸隠大橋の駐車スペースには先行車4台のみ、我々の5台駐車、その後東京からマイクロバスで訪れた15名ほどの団体が加わり、スタート地点は降りしきる雪の中、賑やかとなった。40分ほどのアプローチで漸く登山道入口に到着、黒姫山南西ルートに入るのは我々のみで、他は全て乙妻・佐渡山方面である。この気象状況でそちら方面は厳しいであろう。スタート時新雪は10cm前後であったが、降りしきる降雪により15~20cmの新雪であるが、下に前日までの高温によりモナカ形成されており、嫌らしい。



- ・ カラマツ林の変化ある斜面をほぼ夏道に沿ったルートでハイクアップ、前日までのトレースが薄っすらわかる部分もあるが、ノートレースをラッセル。下地が厚皮モナカ様にやや硬く軽いパウダーのため徐々に降雪量が増える中、ラッセルはあまり苦にならない。徐々に風が強い地帯となり時々突風が襲ってくる。次第にブナが出現し立派なブナの大木も現れ、行動食休憩とした。
- ・ 次第に風が強くなり、ウィンドバックの部分が出て



きたため標高 1530mほ

どのブナ林の素晴らしい平坦地まで登り上げ、そこから滑走することとした。その上部は尾根となり、この悪天では更に状況は悪化することが目に見えている。今回は5名がTM, 厳冬期のこのルート経験者は4名のみで無理はできない。



- 降雪量が 15～20 cm で増加中であるが、下地のモナカ状態では快適な滑走は難しい、往路にはモナカの影響が少なくなっている部分もあるが、経験的にいつもパウダーの溜まりやすい沢エリアの方が良いのではと考え、慎重にエントリーしてみたがモナカの影響が解消されるどころか、ターンに苦勞する。すぐに往路の尾根ルートに戻って下ることとした。



- 一部気持ちよくターンできる部分もあったが、苦勞しながらなんとか一本目が終了し、登山道入り口で休憩、上越からの N 夫妻はこれで終了し帰路についた。
(N 夫妻が駐車場で帰りの支度をしていると戻ってきた 40 才台の強者は、なんと千葉から来て、4 時から 6 時間かけて乙妻山に到着、この悪天でこのロングハードルートを成功させるとは、何たる素晴らしさですね。) 激しい降雪でテンションは下がるが、降雪量が増えるためきっと 2 本目以降は滑りやすくなるであろうと、他の 9 名は頑張ってパウダーランを求めてハイクアップした。



- 2 本目も 1 本目と同じ標高まで登り上げた。降雪量がグングン増加したため、やはり下地のモナカの影響は少なく、気持ちよいパウダーターンができた。一気にメンバーのテンションはアップ、1 本目の鬱憤を晴らすようにリズムに乗ったツリーランに興じた。
- 厳しい気象条件と疲労のため、3 本目の快樂を求めてハイクアップしたのは 5



名であった。遠路遙々、パウダーランを求めてやってきたため、食欲にチャンス逃すまいと最終メンバーにも気合を入れた。3 本目は風の影響も少なくなってきた、幻想的な雪のカラマ

ツ林のハイクアップを頑張った。さすがに体力的にも辛くなってきて、「まだ登るの？」と泣きが入ったが、励まして同じところまで最後の登りを頑張らせた。累計標高差は **750m** ほどであった。

- ・ 3 本目はノートラルートを求めて滑走したが、やはり 2 本目より更に快適であった。こんなダケカンバをバックにバンザイの記念撮影までできた。小生も気持ちよいテレターンを刻めました。初参加の IM さんもリズミカルなテレターンを満喫していた。



- ・ 厳しい気象状況のなか頑張った甲斐が



あり、満足の 1 日目が終了。超満員のゲストハウスランプで、お楽しみの夕食会が始まります。情報交換・山スキー談義に花を咲かせました。明日のルートはどこにしようか??



- ・ 2 日目は冬型の影響がまだ強く妙高エリアは暴風雪予想、信濃町は朝にはほぼ雪は止んでいた。よい条件でパウダーランを楽しむのは鍋倉か高デッキ山である。戸隠のイースタンキャンプ場から高デッキ山に登り上げ、北西斜面を滑走して、更に 2 本目に戸隠スキー場のゲレンデに隣接した **1590m** ピークに向かうカラマツ林の美味しい斜面を頂くのは、ごく一部の地元のガイドなどが知っている静かな好ルートである。4 年間過ごした信濃町時代に小生は、そのエリアを詳細に偵察研究しており K ルートと命名して、山スキー

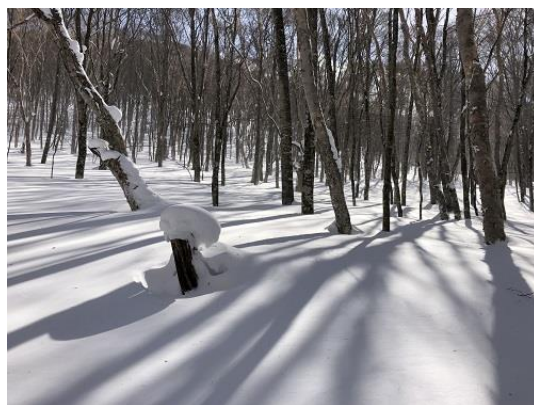
仲間にそのエリアの素晴らしさを伝えて楽しんでいる。戸隠キャンプ場の除雪スペースから出発である。山スキーに入るのは我々のグループのみである。

- ・ 反対側のイースタンキャンプ場側に乗り上げます。イースタンキャンプ場の中を進んで行きます。今日もノートレース、新雪は 30 cm 前後です。まず若手が順番にラッセルです。低温で軽いパウダーのためあまり苦にならないようです。どこを進んでもよいような緩やかで開放的なメルヘンの世界でスノーハイク向けの癒しの好エ

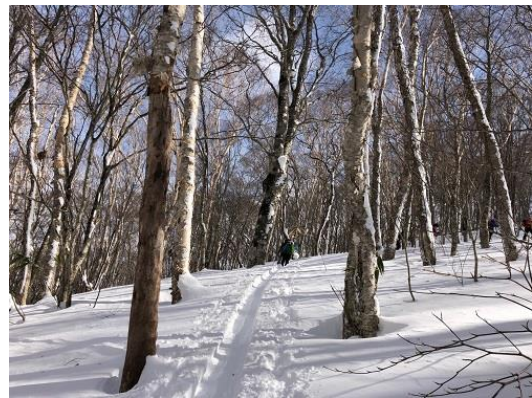


リアです

- ・
- ・ 1 時間ほど緩斜面を進み、高デッキ山の急斜面が近づいてくると雪で埋まった沢を左に渡ります。小さな沢地形が複雑に入り組み、見極めながら進みます。小休止後、このようなブナ林の「光と影の共演」が現れ大感動！！シャッターを押しまくりました。北西斜面のため風の影響が少ない下部は良質のパウダーであり滑走意欲が高まります。



- ・ 標高差 300m程の中急斜面を左から巻くようにジグを切りながら高度を上げます。次第に風の影響が強く現れ、シュカブラや凹凸、ウェイブなど藪が埋まりきってない部分もあり、もあり、上級ルートとなっていました。急斜面キッカーンが苦手な、苦勞している2名のメンバーに指南しながら、漸く全員登頂しました。スタートから標高差約600mの高デッキ山山頂（1716m）は晴れベースでしたが、まだ風が強め、戸隠・高妻山は雲の中でした。上部のテクニカルな滑走が控えています、気合を入れての記念撮影です。

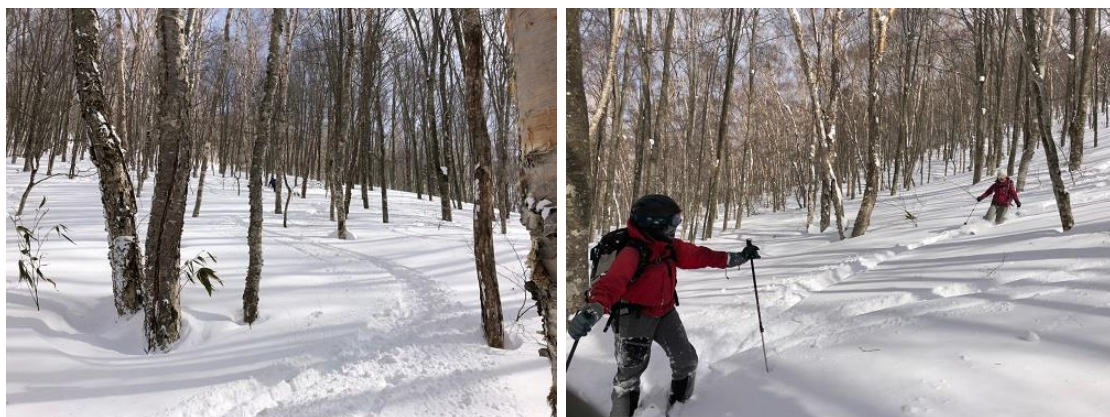


- ・ 高デッキ山滑走の前半は中級斜面で風の影響で雪面が荒れていて慎重に高度を落とさねばならない。スピードコントロールしながら、ゆっくり小刻みに停止して下るように指示した。数名バランスを崩して転倒したが、全員無事に安全地帯まで下降。



後半の中緩斜面は風の影響の少ない素晴らしいパウダーツリーランを、雄叫びとともに堪能

できた。広い恰好のパウダーエリア、皆さん快適なターンを満面の笑みで堪能していました。登りの苦勞が報得られた瞬間です。



- ・ 2日目のメインデッシュ：高デッキ山北西ルートのパウダー：を美味しくいただきましたが、少し物足りません。そこでいつも高デッキ山の南西方向にある 1590mのピークに向かって標高差 250m程登り上げます。急斜面を少し登ると、カラマツ林の素晴らしい中斜面になります。ここは風の影響が少なく、良質のパウダーが温存される北西斜面です。疲れていますが、快適滑走が期待されるデザートですよと励ましながら登りました。2日目の累計標高差は 850mほど、最後の登りを終えスキー場をバックに記念撮影をしました。



- ・ カラマツの枯れ枝が散らばる中斜面、このデザート滑走は、いつものように期待通り美味しゅうございました。この斜面に入り込むBC愛好家は殆どないようで、いつも貸し切り状態です。最後の雄叫びランを楽しみました。長い緩斜面を、登りトレースを辿り

滑走、フィナーレで漸く戸隠の岩峰が見えるようになり、最後は中社の奥にある「神告げの湯」で汗を流し、信州そばを食べて帰葉した。冬型の厳しい 2 日間であったが、厳しくも味のある素晴らしいパウダーツアーとなりました。



